

## ケーススタディ:

メキシコの銀行における、  
\$ のソート、スワップ、保存

## 課題

メキシコに拠点を置く、この銀行および金融サービス企業について注意深く分析したところ、メインフレーム環境におけるソート機能の日次バッチ処理が、CPU 占有時間だけで約 \$1,000,000 のコストが掛かっていることが判明しました。

同様に心配されたのは、CPU 占有時間がトランザクション処理、CRM その他の重要なビジネス用途で決定的に重要になる、午前 11 時から午後 5 時までの時間にどの程度侵食しているかということでした。また、顧客満足度、サービスレベル品質保証、および同様の問題が課題となっていました。

これらの 2 つの要因により、DFSORT に代わるものを探すことになりました。なぜなら、DFSORT (IBM の標準版のメインフレーム ソートユーティリティ) が、必要とされた水準でなかったからです。メインフレーム IT グループは、もっと速いソートユーティリティが他にあることは知っていましたが、どれが最良の選択なのでしょうか？そしてそれは、時間の節約とより低い CPU 占有時間料金について、どれだけの違いを生み出すのでしょうか？

## 解決策

広範囲な探索の結果、メキシコシティの IT および管理コンサルタントである Devant Mexico を通じて提案された、ある製品が見つかりました。それは Precisely およびそのフラッグシップ ソートユーティリティである、Syncsort MFX です。銀行の IT チームは、Devant と Precisely の共同による CPU 占有時間の節約に関するプレゼンテーションに強い印象を受け、Precisely に対して、実際の銀行業務負荷の一部を使用したコンセプト実証 (POC) の実行を依頼しました。

POC では期待値どおりの結果が確認されたため、顧客は Syncsort MFX のライセンスを購入して、メインフレーム環境での試験を開始しました。2 ヶ月後、Syncsort MFX の本番システムでの使用を開始しました。

## 結果

本番環境に Syncsort MFX を導入したところ:

- 顧客は、ソート/コピー/マージ処理における CPU 占有時間の約 40% の節約と、経過時間の 10% ~ 15% の削減を実現
- ソート処理が対話式アプリケーションの時間を侵食することがなくなった
- 重要なビジネスアプリケーションにおける顧客サービスと反応時間の低下の可能性が提言された

Syncsort MFX 導入から数ヶ月後、Precisely は当該顧客に対して、21 日間にわたって負荷最適化分析を行いました。結果を 21 日分から 1 年間に外挿し、業界の標準的な推定値としてメインフレーム ソート処理の CPU 占有時間 1 秒あたり \$0.12 を使用すると、当該顧客は年間でソート/コピー/マージ処理に約 \$785,000 を費やしているものと推定されました。Syncsort MFX の導入以前の、約 \$1,000,000 と比較すると大きな違いです。比較は、3 週間から 1 年間への外挿に基づくため、ざっくりとしたものではありませんが、Syncsort MFX の導入後、ソート処理のための CPU 料金が 20% 以上改善したことを示唆しています。この経験から、当該顧客は問題解決のために Syncsort ZPSaver を追加することを検討しています。Syncsort ZPSaver は Syncsort MFX の拡張で、より多くの割合の該当する負荷を、汎用プロセッサから IBM z コンピューターにインストールされている zIIP プロセッサに振り替えるものです。利用料金は、zIIP プロセッサの使用時間に基づくものではなく、汎用プロセッサの利用時間に基づくものであるため、それによって CPU 利用コストをさらに引き下げることができます。

